

資料番号	2
------	---

令和5年9月14日
 課名 環境県民局学事課
 担当者 課長 佐々木
 内線 2757

 課名 環境県民局高等教育担当
 担当者 課長 徳田
 内線 2751

令和5年広島県議会9月定例会提案見込事項

1 予算議案（令和5年度一般会計補正予算）

（1）歳入

（単位：千円）

款	現計予算額	今回補正額	計	説明
国庫支出金	9,031,333	15,009	9,046,342	新型コロナウイルス感染症対応 地方創生臨時交付金 15,009
環境県民局（文教関係）計	9,416,507	15,009	9,431,516	

（2）歳出

（単位：千円）

款	項	現計予算額	今回補正額	計	説明
教育費	教育総務費	24,627,510	15,009	24,642,519	1 私学振興補助金 15,009
環境県民局（文教関係）計		29,598,329	15,009	29,613,338	

【要求内容】

- 寄宿舍光熱費負担軽減事業：15,009千円
 私立学校の寄宿舍における光熱費の価格上昇分を支援することで、保護者の負担軽減を図る。

2 その他の提出案件

(1) 広島県公立大学法人業務の実績に関する評価結果について

ア 概要

広島県公立大学法人の業務の実績について、県の附属機関である広島県公立大学法人評価委員会による評価結果を報告する。

なお、令和4年度は、第三期中期目標期間の4年目に当たり、地方独立行政法人法第78条の2の規定に基づき、当該事業年度の業務実績の評価（年度評価）及び第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる業務実績の評価（中間評価）を行った。

イ 評価結果

(ア) 年度評価

令和4事業年度の業務実績については、5つの大項目のうち、1項目が「順調」、4項目が「おおむね順調」の評価であり、全体評価としては「年度計画の実施がおおむね順調である」と評価できる。

- ・「順調」：Ⅱ 研究の質の向上
- ・「おおむね順調」：Ⅰ 教育の質の向上、Ⅲ 新たな教育モデルの構築、Ⅳ 地域貢献・大学連携の推進・学生の支援、Ⅴ 法人経営

(イ) 中間評価

第三期中期目標の終了時に見込まれる業務実績については、5つの大項目のうち、3項目が「順調」、2項目が「おおむね順調」の評価であり、全体評価としては「第三期中期計画の達成に向けて、取組がおおむね順調に進捗している」と評価できる。

- ・「順調」：Ⅰ 教育の質の向上、Ⅱ 研究の質の向上、Ⅴ 法人経営
- ・「おおむね順調」：Ⅲ 新たな教育モデルの構築、Ⅳ 地域貢献・大学連携の推進・学生の支援

※ 大項目評価は、次の5段階で評価

S：特筆すべき進捗状況・A：順調・B：おおむね順調・C：やや遅れている・D：重大な改善事項がある

【主な内容】

I 教育の質の向上 ～県立広島大学 ▶年度評価「おおむね順調」 ▶中間評価「順調」	
学 部 ・ 学 科 等 の 再 編 立 教 学 マ ネ ジ メ ン ト の 確 立	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ フィールドワークを通じて実践力を養成する「地域課題解決リーダー養成プログラム」を新設するなど、副専攻プログラムの充実に取り組んでおり、受講者も増加傾向にある。 ○ 目指す人材の育成に向けて、「課題探究型地域創生人材ルーブリック」をベースとした科目別ルーブリックの導入や外部評価テストの活用を進めているが、科目別ルーブリックの導入率は、目標を大きく下回っており、学内への浸透を加速させる必要がある。 <p>【今後の取組～第三期中期目標期間の終了時に向けて】</p> <p>第三期中期計画の達成に向けて、学生が幅広い学びを実践できるよう、引き続き、副専攻プログラムや全学共通教育科目の充実に取り組むとともに、学内へのルーブリックの浸透を通じて、各科目への導入を促進するなど、教学マネジメント体制の更なる強化に取り組まれない。</p>
学 修 時 間 の 実 質 的 な 増 加 ・ 確 保	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンラインによる授業が中心であったが、令和4年度は、文部科学省の通知なども踏まえ、感染防止対策を講じた上で、対面授業の実施に取り組み、アクティブ・ラーニングの手法を積極的に採り入れた結果、学生アンケートでは、授業の総合満足度が94.9%となるなど、学修者本位の授業が展開されているものと評価できる。 ○ 一方で、専門科目等に係る主体的な学修時間は、前年度に比べて減少している。 <p>【今後の取組～第三期中期目標期間の終了時に向けて】</p> <p>第三期中期計画で掲げる学生の学修時間の増加に向けて、アクティブ・ラーニングの効果を高める事前学修や事後の振り返りの徹底のほか、オンライン授業で採り入れたチャットやメールによる質疑応答など、コロナ禍で培ったノウハウも活かしながら、学生の主体的な学修の促進に取り組まれない。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">専門教育の充実</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専門教育を通じて実践力を備えた学生を育成するため、受験対策講座・模擬試験や学生への個別指導など、国家資格等の取得支援に取り組み、作業療法士を除く全ての国家試験において、全国平均を上回る合格率を達成しており、これまでの対策の成果が着実に現れている。 ○ しかしながら、看護師、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士の合格率自体は、目標を下回っている。 <p>【今後の取組～第三期中期目標期間の終了時に向けて】</p> <p>合格率が目標を下回った要因を分析した上で、国家資格取得支援の更なる強化を図り、地域社会が求める実践力を有する人材の育成に向けて、学部・学科等を挙げた取組に努められたい。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">国際化の促進</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たに2大学と交換留学協定を締結し、留学生の派遣・受入体制の強化を図るとともに、JICAとの覚書による留学生の受入れや、欧米圏協定校への新規派遣などを実施している。また、オンラインでの語学研修等を通じて、外国人学生との交流機会を設け、学生の語学力の向上、留学意欲の醸成に取り組んでいる。 ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい留学環境が続く中、海外派遣学生数・留学生の受入数ともに前年度から増加するなど、取組の成果が現れてきている。 <p>【今後の取組～第三期中期目標期間の終了時に向けて】</p> <p>第三期中期計画に掲げるキャンパスの国際化に向けて、引き続き、学生の海外派遣や留学生の受入れ環境の整備と学生の意識啓発に取り組むとともに、国際交流協定締結校の拡大、交流の活発化に努められたい。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">大学院教育の充実</p>	<p>《HBMS》</p> <p>【取組と成果・課題】</p> <p>スタンフォード大学との連携プログラムのほか、竹原市と連携して「竹原地域次世代ビジネスリーダー養成講座」を開講するなど、実践的かつ専門的な教育プログラムを積極的に展開し、正規課程の志願者数及び社会人教育プログラムの受講者数ともに増加するなど、取組が計画を上回って進展しているものと評価できる。</p> <p>【今後の取組～第三期中期目標期間の終了時に向けて】</p> <p>引き続き、地域や企業・団体等のニーズを踏まえて、カリキュラムの改善・充実を図り、第三期中期計画に掲げる高度な専門能力と卓越した実践力を備えた経営人材の育成に取り組まされたい。</p> <p>《総合学術研究科》</p> <p>【取組と成果・課題】</p> <p>学部生への進学説明会の開催、大学院生の研究活動や修士生の声の積極的な発信など、大学院への進学促進に取り組んでいるが、令和5年度の定員充足率は、前年度から低下し、目標を大幅に下回っている。</p> <p>【今後の取組～第三期中期目標期間の終了時に向けて】</p> <p>定員充足率は、専攻によりバラつきも見られることから、専攻ごとの課題やその要因を分析し、定員の見直しを含めて抜本的な対策を検討するとともに、経済的支援策の拡充など、学部・学科等再編後の入学生が大学院へ進学する令和6年度に向けて、より一層取組を強化されたい。</p>
<p>II 研究の質の向上 ～県立広島大学 ▶年度評価「順調」 ▶中間評価「順調」</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">外部研究資金の獲得支援</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外部資金の獲得に向けて、公募情報の収集・提供、教員の研究分野と募集内容のマッチングなどの支援に加えて、文部科学省の科学研究費補助金に係る申請書作成支援の拡充や、獲得資金の一部を研究費として還元する制度の試行など、教員の意欲を高める取組にも着手している。 ○ こうした取組を通じて、科学研究費補助金の申請率、獲得件数・金額ともに目標を達成しており、計画を上回る成果として評価できる。 <p>【今後の取組～第三期中期目標期間の終了時に向けて】</p> <p>引き続き、教員に対する支援やインセンティブ制度の充実等を通じて、外部資金の獲得を促進し、第三期中期計画に掲げる研究活動の活発化に向けて取り組まされたい。</p>

Ⅲ 新たな教育モデルの構築 ～叡啓大学 ▶年度評価「おおむね順調」 ▶中間評価「おおむね順調」	
教育プログラムの整備等	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 叡啓大学では、実践英語やリベラルアーツ、ICT・データサイエンス等を発展的に学ぶ「基盤科目」の開講に加え、「叡啓大学実践教育プラットフォーム協議会」を拡充し、実際に企業等が抱える課題をテーマとした課題解決演習（PBL）に取り組むとともに、海外での体験・実践プログラムをスタートさせるなど、カリキュラムの核となる実践的な教育の充実が図られており、「新たな教育モデル」の構築が順調に進んでいると評価できる。 ○ 一方で、学生のコンピテンシーの修得度を測るルーブリックを活用した成績評価制度を導入し、ファカルティ・ディベロップメント（FD）に取り組んでいるが、学内への浸透が遅れている。 <p>【今後の取組～第三期中期目標期間の終了時に向けて】</p> <p>第三期中期目標期間の終了時に迎える学年完成に向けて、教育プログラムや成績評価制度の検証・改善を進めるとともに、「叡啓大学実践教育プラットフォーム協議会」の更なる拡充、参画団体との連携強化を図るなど、叡啓大学の目指す教育の実現に鋭意取り組まれない。</p>
留学生の確保	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、従来の取組に加え、渡航・入国制限の緩和後は、再開された留学フェアやセミナーに積極的に参加するなど、留学生の確保に注力している。また、独自の給付型奨学金制度を創設するなど取組を強化し、これまでの実績を上回る志願者の確保につなげている。 ○ しかしながら、英語力や論理的思考力・表現力など、叡啓大学が求める資質・能力を満たす留学生を十分確保するには至らず、令和5年度の入学予定者は10名に止まっている。 <p>【今後の取組～第三期中期目標期間の終了時に向けて】</p> <p>第三期中期目標期間の終了時に迎える学年完成に向けて、目指す姿を実現できるよう、海外の留学斡旋機関との連携や給付型奨学金の積極的なPR、海外大学との交流の活発化など、留学生確保に向けた取組の強化を図られたい。</p>
志願者の確保	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オープンキャンパスやオンライン説明会の開催、高校に出向いての模擬授業等の実施、出願実績校への個別訪問など、教職員が連携して志願者確保に取り組むとともに、SNSによる授業風景や在学生メッセージの情報発信、ビジネス誌への掲載など、叡啓大学の認知度向上、教育への理解醸成に取り組んでいる。 ○ しかしながら、令和5年度入学者選抜においては、英語力に係る厳格な出願要件の影響などから、志願倍率は1.6倍に止まっており、志願者の確保が課題となっている。 <p>【今後の取組～第三期中期目標期間の終了時に向けて】</p> <p>叡啓大学の求める資質・能力を有する学生を継続的かつ安定的に確保するためには、教職員が一体となり、叡啓大学の実践する教育との親和性が高い全国の高校へ積極的に働き掛けるとともに、ブランドの構築や広報活動の強化に取り組む必要があり、学年完成を迎える第三期中期目標期間の終了時に向けて、全学を挙げて取り組まれない。</p>
Ⅳ 地域貢献・大学連携の推進・学生の支援 ～共通 ▶年度評価「おおむね順調」 ▶中間評価「おおむね順調」	
リカレント教育	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県立広島大学では、幅広い学習ニーズに対応した公開講座を開講するとともに、経営学や情報学など専門性の高いプログラムを展開しており、受講者アンケートでは、満足度89.7%、有料講座受講者の89.1%が「学修成果を活用できそう」と回答するなど、県民の学習ニーズを満たす質の高い講座が提供されている。 ○ 叡啓大学においても、公開講座や研修会の開催のほか、県内高校を対象とする模擬授業の実施や探究的な学習に係る研修会の開催など、叡啓大学が実践する「新たな教育モデル」の普及、浸透に取り組んでいる。 <p>【今後の取組～第三期中期目標期間の終了時に向けて】</p> <p>引き続き、生涯学習や社会人のリスクリングなど、県民・企業の幅広い学習ニーズに応えるプログラムを提供し、第三期中期計画に掲げる地域における人材育成機能の強化に努められたい。</p>
Ⅴ 法人経営 ～共通 ▶年度評価「おおむね順調」 ▶中間評価「順調」	
法人運営の効率化等	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1法人2大学体制による効果的・効率的な法人運営の確立に向けて、令和4年度は、例規システムの導入、勤怠管理システムや文書管理システムの整備に着手するなど、業務の効率化・共通化を進めている。 ○ こうした中、県監査委員による外部監査において、前回（R2）に続き、3件の指摘を受けるなど、更なる改善が課題となっている。 <p>【今後の取組～第三期中期目標期間の終了時に向けて】</p> <p>引き続き、事務の集約・共通化を進めるとともに、教職員研修会の開催や事務処理マニュアルの見直しなどに取り組み、第三期中期計画に掲げる効率的かつ効果的な法人運営体制の構築とコンプライアンスの確保に努められたい。</p>

- (2) 県が資本金の四分の一以上を出資等している法人の経営状況説明書について
・ 広島県公立大学法人